

多種多様なOSSを高精度に検出し、 SBOMを継続的に管理

お客様のメリット

広い対応範囲と高い精度を兼ね備えたOSSのライセンス・ぜい弱性管理ツール

広範囲な
コードスキャン

多種多様なOSSに対応

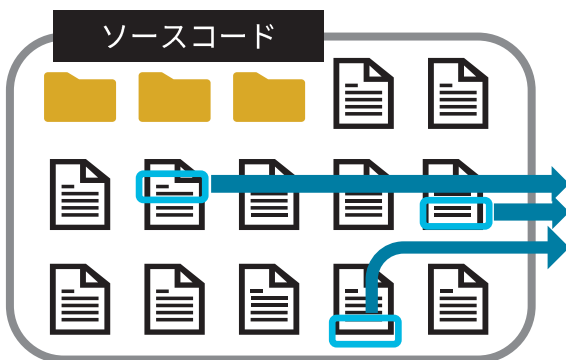
SBOM※の生成と管理
※ Software Bill of Materials (ソフトウェア部品表)

特長と概要



1. 広範囲なコードスキャン

OSSコンポーネント全体だけでなく、ファイルレベルやスニペットレベルで検知・解析し、派生元のオープンソースを特定します。



高精度のOSS検出

部分的なコード（スニペット）レベルまで検出
AIコーディングツールで生成されたOSS由来
コードの解析にも対応

2. 多種多様なOSSに対応

オープンソースや独自開発ソースを含む幅広いソフトウェアコンポーネントを網羅。専任の研究チームが独自のナレッジデータベースを常に維持管理できます。

3. SBOMの生成と管理

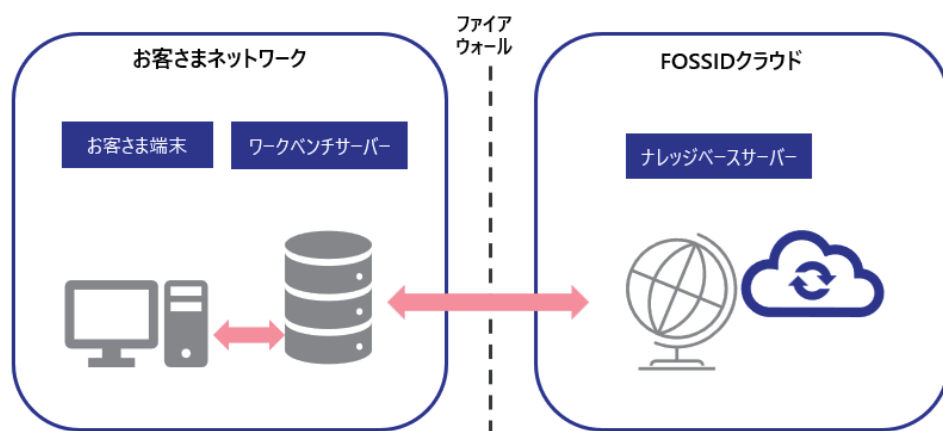
分析した結果はソフトウェアのコンポーネント情報として標準のSBOM形式 (SPDX、CycloneDX) で出力、管理できます。

導入効果

Case OSSの継続的なライセンス・セキュリティ対応を実現

- ◆ 課題：OSSを部分利用したコードやAIコーディングツールにより生成されたOSS由来コードの把握が困難
- 効果：OSSのコンポーネントやバージョン情報に依存するだけでなく、ソースコードに含まれる部分的なコード（スニペット）やAIコーディングツールで生成されたOSS由来コードにも対応し、より精度の高い検出を実現。
- 課題：ぜい弱性情報は常に変化。最新状態を維持しなければ、攻撃リスクが増大。
- 効果：米国NISTのぜい弱性データベース（NVD）に加え、EPSS※スコアやCISA KEV※など複数のぜい弱性情報ソースを活用し、ぜい弱性の検出と対応優先度の判断を支援。効率的なセキュリティ対応を実現。
※EPSS：ぜい弱性が悪用される可能性を示す指標 ※KEV：実際に悪用が確認されているぜい弱性リスト（CISA管理）
- 課題：OSS利用におけるライセンス遵守が不可欠だが、確認の工数がかかる。
- 効果：OSS識別とライセンス確認の工数を大幅に削減し、リスク管理を効率化。

導入構成



- ナレッジベースはクラウドで管理され、ぜい弱性情報が継続的に更新されます。
- ソースコードはお客さまのネットワーク外には送信されません。
⇒ ナレッジベースへの照会を行う際は、ソースコードのデジタル署名のみが使用されます。

株式会社日立システムズエンジニアリングサービスは、
FOSSID ABが提供するOSSセキュリティ管理ツール「FossID」の販売・導入支援パートナーです。
※FOSSIDは FOSSID AB の登録商標です。

株式会社 日立システムズエンジニアリングサービス

お問い合わせは

本社：〒220-8132 横浜市西区みなとみらい2-2-1
横浜ランドマークタワー32階
www.hitachi-systems-es.co.jp



※本カタログに記載されている会社名、製品名は、それぞれの会社の登録商標または商標です。
※本カタログに記載されている内容、仕様については、予告無く変更する場合があります。

※本製品を輸出する場合には、外国為替および外国貿易法ならびに、米国の輸出管理関連法規などの規制を御確認の上、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明な場合は、当社営業にお問い合わせください。

SS-2601 2026.07

Printed In Japan